Annual Report

2015



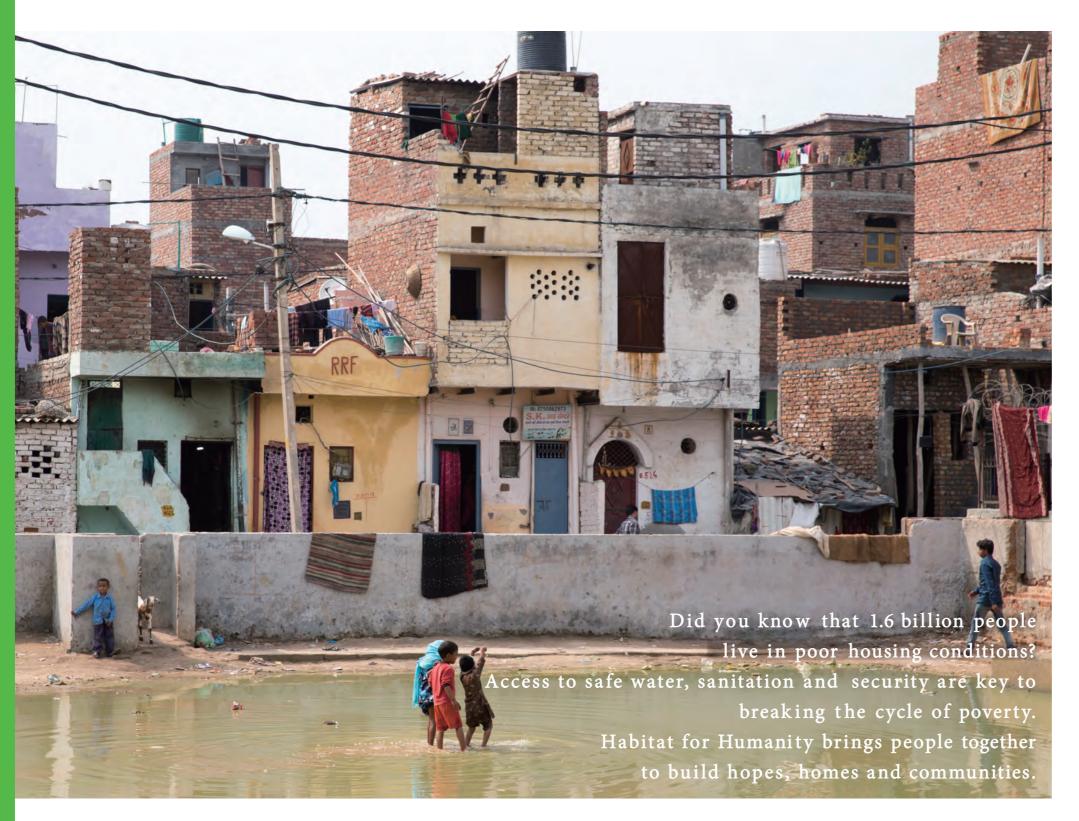


界の約16億人が貧困住居での生活を余儀なくされている 現状を知っていますか?

安全な水や衛生環境、家族の安全が守られる家、

それは希望ある未来を築く一歩です。

だからハビタットはボランティアと共に、家をそしてコミュニティを築いています。



人々の参画から社会を変える

Bringing people together transforms a community to be a better place to live.

上し さんの中には「ボランティア」という言葉に、あえて関わる必要のないものと ージをもつ方がおられるかもしれません。しかし私たちは日常生 活の中で、近所のお年寄りの手助けをしたり、地域を清掃したり、防犯パト ロールにあたったりと、その意義に気付かないまま行動していることがあります。ボラ ンティアとは、住みよい地域を作りたいという思いから生まれる奉仕活動のことです。 自発的に生まれる地域への愛着、そして奉仕は、自分の暮らしだけでなく、普段ほとん ど関わりのない人々の暮らしにさえ変化をもたらしているのです。

2015年度、ハビット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは、900人以上の若者たちと共 に活動しました。彼らはインドやスリランカ、インドネシア等、アジア各地に赴き、ボラン ティアとして、現地の家族、そしてその地域に暮らす人々と共に住宅の建築にあたりまし た。一方、ネパール地震による被災地では、更なる地震や余震で人命が奪われることの ないよう、現地NGOとも連携し被災家屋の危険度診断プロジェクトを開始しました。 これらハビタットのミッションである「Bring People Together (手を取りあって)」を推 し進めることで、アジア各地で人々が安心して暮らすことのできる住まいの実現、そして より住みよいコミュニティの形成に寄与しました。2016年度は、日本国内においても 活動を広げ、若者や地域の人々と手を取り合い、「誰もがきちんとした場所で暮らせる 世界」の実現に向けて、日本国内からアジアの各地において活動を続けてまいります。

To some of us the word "volunteer" may invite thoughts of working for free, not a serious, or even not worthwhile endeavor. However every day in our day-to-day life, we perform this act without realizing its value. Volunteering is a service to your community. Each day our selfless efforts in the community make a difference in people's lives, even to those whom we barely know. Habitat for Humanity Japan in FY15 has worked with more than 900 youths who want to make a difference in this world and in people's lives. These youths have participated and volunteered their time in our housing programs all over Asia. Our Nepal disaster response program has also served to save human lives from future quakes by assessing more than 15,000 damaged homes. All of these initiatives promote Habitat's mission in bringing people together. These results are an outcome of our belief in the value of service to the community. In FY16, Habitat for Humanity Japan wants to expand its community service value in Japan and in various communities across Asia. We invite young people and the wider community to make their presence felt both in Japan and the world, and to be of service to others by extending our value of hospitality to those in need. Only through being a gracious and willing host to our wider community will our world be a more decent place to live.

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン常務理事 Executive Director of Habitat for Humanity Japan Tomova Kaji

鍛冶 智也

ハビタットが取り組む支援の3本柱

Three ways for realizing a decent place

Build Community **Impact**

IMPROVE HOUSING CONDITIONS

住環境の改善に向けた 住宅建築、 そしてコミュニティ 形成への取り組み

Build Sector **Impact** PARTNER TO INCREASE SHELTER ACCESS

行政や住宅業界と 住居支援

Social INSPIRE ACTION

TO END **POVERTY** HOUSING

Build

海外建築ボランティアプログラム 11 Countries

Approx. 160 Homes

GLOBAL VILLAGE PROGRAM

.. | C



015年度も900名以上のボランティアが日本からアジア各国に赴 き、現地の家族と共に、住宅の建築にあたりました。日本からの **ニ** ボランティアの多くは、ハビタット・ジャパンの学生支部に所属す る大学生です。チームを結成し、事前学習を経て、春と夏の休暇を利用し 活動に参加しています。日本の若者が積極的にボランティア活動に参加す ることで、アジア各国でも若い世代のボランティアを育てることが注目さ れてきています。

Habitat for Humanity Japan mobilized more than 900 volunteers to send to the Asia-Pacific region to build homes and communities for those in need of decent shelter. Most of those volunteers were from campus chapters, Habitat's student-led organizations across Japan. Youth engagement from Japan invites more young volunteers from other Asian countries to bring more people together and to foster future leaders.

「高校生の頃海外建築ボランティアプログラム(GV)参加を通じてタイを訪れ、 一見日本と変わらない発展の中に、明らかな貧富の差があることに衝撃を受 けました。そして、貧困の中でも、そこに暮らす家族や子どもたちは夢を持ち、 学ぶことへの意欲に溢れる姿に多くのことを学びました。この経験がなかっ たら、大学で、ハビタットの学生支部代表を務めることもなかったように思い ます。GVは決して支援する側、される側ではなく、GIVE&TAKEの活動。GVは、 自分の人生と真剣に向き合うことを学ばせてくれた活動です」そう話す大崎 さんは、2014年夏、スリランカを訪れ、再び建築活動に参加しました。

"I had an amazing, life-changing experience when I visited Thailand and volunteered with a family on my high school trip. The Global Village program is not simply an opportunity to give. As a volunteer, I also learned from the family I met and now hope I can also give something back to them," said Koko. She also visited Sri Lanka in the summer of 2014 to build a home and had another memorable experience as a president of a campus chapter.

GLOBAL

VILLAGE

PROGRAM

PROGRAM

RESPONSE

DISASTER

гоноки



東北復興支援事業を通じて出会った被災地の皆さま、 そして、支援活動にボランティアとして 参加してくださった皆さま、ご寄付をお寄せくださった皆さま

4年間 ありがとうございました。

We thank you for your generous support on our Tohoku Disaster Response for four years.

曾有の被害を残した2011年3月の東日本大地震発生以 Nビタットは被災家族の住環境を取り巻く問題にア プローチしてきました。がれき撤去や生活物資の配布か ら、公共施設や200軒に及ぶ個人宅の修繕、そして初のセルフビル ドによる自力再建サポートと、刻々と変わる被災地のニーズに合わ せ、ボランティアと共に活動を続けて参りました。東北事業の最終 年となる4年目には、支援の行き届きにくい内陸部において地震で 被災した住宅20軒の修繕を行いました。この3月をもって支援活 動は完了しましたが、今後は学生支部やボランティアへの呼びかけ などを通じて東北の復興を見守って参ります。

In March 2015, Habitat for Humanity Japan completed its first major in-country operation: Rebuilding Japan. Over the last year of this program, Habitat Japan has continued to assist people to attain safe places to live, by repairing 20 homes in Tohoku. We could not have accomplished this without volunteers from all over Japan who travelled to the site to lend their helping hands, and for this Habitat Japan is infinitely grateful.

■ コミュニティ支援のその後 A Window into a Community

東日本大震災で甚大な被害を受けた地域の一つ、岩手県大船渡市でソー ラー発電支援を開始してから2年半が経過しました。本支援を通じて、障が いを抱える家族を持つ13世帯、そして、地域住民の拠点となる公民館4館へ ソーラー発電設備の設置を行いました。

ハビタット・ジャパンでは、定期的にこの支援の効果について、フォローアッ プ調査を実施しています。特に、公民館への設置は、売電収入が自治会費に も相当する金額になる場合もあることから、それをどのように利用して地域 を再建していくのか、住民の方々の取り組みを見守っています。

Two years have passed since Habitat for Humanity Japan began to distribute solar panels to four community centers in Ofunato, Iwate Prefecture. Although the solar panel installations are now finished, Habitat Japan continues to conduct follow-up research on a regular basis to study the effectiveness of this project. One of the communities is planning to spend the income

ing excess electricity for the upcoming local festival. That festival will bring the community together and help the community to heal from the trauma they have suffered.

~岩手県大船渡市綾里石浜地区の活用事例~

45世帯が暮らす綾里石浜地区では、これまで大切に貯めた売電収入 を「5年祭」の開催に利用する計画です。この地区には4年(数えで5 年)に1度開催する地域のお祭りがありましたが、震災のためにこれ まで開催に至ることができませんでした。地域のお祭りは、氏神に感 謝を捧げる祭祀であると共に、地元の人々がその準備の過程を含め て心を一つにする機会であり、コミュニティの再建にとって欠かせな い意味合いを持っています。4年に1度しか開催されない、そして震 災後初のお祭りともなれば、思いはひとしお強く、多くの住民がその 開催を心待ちにしています。コミュニティの再建は一朝一夕にはいき ません。20年間は機能を大きく落とすことなく発電し続けるソーラー 発電は、これからも長い間、ハビタットやその支援者の方々の思いを 形に変えていってくれると考えています。

■ 自治会長さんの声 Comment by a Community Leader

私どもの年間予算はこれまで自治会費で50万円ほどでした。これに毎年計

東北大学を拠点とする As One は、今もなお、ハビタットが築いた繋がりを自 ら生かし、被災地のニーズに応じたボランティア活動を続けています。一方、 震災を経験していない学生支部の東北派遣に協力し、他県の学生支部の受 け入れなどの取り組みも行っています。As One代表の高田さんは、「東北支 援やボランティアをきっかけに、多くの方と繋がりができ、いつのまにかこち ら側がたくさんのものをいただきました。東北支援の形がハード面にシフト している現状、学生だけでできることは少なくなっていますが、3.11を風化さ せないためにも、自分たちに何ができるか考え、それを記録したり、ハビタッ トの学生団体の子たちに東北に来てもらい、3.11のことだけでなく、今の東 北の魅力を伝えることができればいいと思っています」と話します。

5月には、As Oneの協力の下、関西学院大学上ヶ原ハビタットのメンバーが 東北を訪れました。多くの学生が初めて東北に来ることから、ボランティア の活動は行わず、被災地の名称やシンボル的な場所を訪れ、語り部さんのお 話を聞くなど、ボランティアツーリズムを意識した企画を実施したとのことで す。派遣を行った上ヶ原ハビタットでは、派遣後に団体内で報告会や写真展 また被災地の復興支援を支えるための募金活動を開催するなど、As One を 含め、多くの学生支部がこれまでの繋がりを生かし、学生ができる形で被災 地に寄り添った活動を続けています。

Campus chapters are an integral part of fulfilling Habitat for Humanity's mission to bring people together to build homes, communities and hope. The campus chapter based in Tohoku University, called As One, continues to do volunteer work both within the network provided by Habitat Japan, and in outside networks created in their own locale. They take their mission seriously, and are determined not to forget what happened in Tohoku, and to use that memory as energy to invigorate healing.



TOHOKU

DISASTER

RESPONSE

PROGRAM

ネパール地震被災者支援事業

015年4月25日に発生したネパール地震では、9,000名近くの 方が命を失いました。大地震の発生は予期されていたものの、 貧困国故に、粗悪な施工や建材による脆弱な住宅構造の問題 が解決されないまま地震被害を受け、大勢の人々が圧死する結果を招 きました。全壊した建物軒数は60万棟を超え、多くの住民が自宅の脇 にテントを設営するなどし、急場の住まいの確保が必要となりました。

The earthquake which occurred in Nepal on April 25, 2015 left behind massive destruction and devastation that affected millions of people. Habitat for Humanity has assisted families who are in need to rebuild their lives and communities.



地元ボランティアによる瓦礫撤去

Rubble Removal

PROGRAM

ESPONSE

5月2日より地元のボランティアと共 On May 2, Habitat for Humanity に、被災家屋のがれき撤去を開始し ました。支援を受けたベルマヤさん は「孫と同い年くらいの子達が支援 に来てくれてうれしいです。まるで う話してくれました。

Kavrepalanchok, Kathmandu,

began to mobilize local volunteers to support families who were in need by removing rubble from their original homes. Ms. 本当の家族のように感じました」そ Belmaya Shrestha commented on the volunteers: "These kids remind me of my own grandkids. I feel like they are family coming here to help me. God bless them!"



ウォーター・バックパックの配布

Distribution of Water Packs

ハビタットはアクセスが困難な山間 部で、地元のパートナー団体と連携 し、総数20,000個のウォーター・バック パックを配布しました。容器は12リッ トルの水を保管でき、安全な水を確 保することが難しい家族に届けられ

Habitat for Humanity collaborated with other local organizations to send water backpacks to areas where access to safe water was not readily available.



配布個数/Distributed

20,000 Packs

Dhading, Dolakha, Gorkha, Kavrepalanchok, Ramechhap,



シェルターキットの配布

Distribution of Temporary Shelter Kits

多くの被災住民が避難生活や仮住 まいなどを余儀なくされる中、6月 頃から訪れる激しい雨季の到来に 備え、安心して眠ることができる住 まいの確保が喫緊の課題として挙 的な住宅の再建時にも利用できる nent house. 建材と工具を揃えたパッケージキッ トの配布を開始しました。

Dhading, Gorkha, Kavrepalanchok, Sindhupalchok

Habitat for Humanity distributed temporary shelter kits to affected families. Kits contained materials and tools needed to build a temporary shelter. The げられていました。ハビタットは、こ same materials can be used at れまでの支援経験を生かし、恒久 a later stage to build a perma-



Safety Assessment Project

支援世帯予定/ Prospect to assess

15,000 Homes

Lamjung, Dolakha, Kavrepalanchok

大地震後も、この地震やその後の余震、また雨季で降り続く雨のために脆く なった建物が、人々の命を奪い続ける現実が予想されたことから、犠牲者が ますます増えていくのを少しでも食い止める取組みが必要でした。そこで、 ハビタット・ジャパンでは、特活)ジャパン・プラットフォームの助成を受け、 特に支援が届いていない地方(特に山間地)のコミュニティに専門家を派遣 し、被災した住宅を1軒1軒診断して、引き続き使い続けられる安全な家かど うか、そうでなければどう修繕や補修をすべきかなど技術的な助言をしてい く支援を計画。今後発生し得る更なる建物倒壊と犠牲を未然に防ぐ活動に 乗り出しました。

> To save lives, Habitat for Humanity Japan began a Safety Assessment Project. Surveyors assessed the damage to the houses and advised the homeowners about needed repairs or suggested retrofits to increase home safety. In doing this work, Habitat Japan gave homeowners the information they needed to make decisions about whether or not their families should continue to live in the home.





広島土砂災害被災者支援事業 20 Families

014年8月20日、広島で大雨による土砂災害が発生し、74 名もの人命が失われました。ハビタット・ジャパンは、発災 直後から職員を現地に送り、活動を開始しました。この時、 広島市などを拠点とする学生支部「広島Groo' ve I に協力を呼び かけ、土砂のかき出しなどに着手しました。

東北支援の経験からも、報道などでは伝えられない細やかな ニーズに対応するには、長期的な視点を持った、地元中心で進め る支援の形が最適だと判断し、こうした学生支部によるボラン ティア活動に加え、地元の支援団体と協働で支援することを決 定。この災害を機に地元の有志で立ち上げた一般社団法人「広 島たすけ隊」と共に、被災された家族が元の暮らしを取り戻せる よう、被災した家屋の床下に入り込んだ汚泥の除去や消毒作業 などの支援を行いました。

ハビタット・ジャパンは、災害発生から1年の節目を機に緊急支援 を完了しました。これまでに皆さまからお寄せいただいた温かいご 支援に心より御礼申し上げます。

Over a year has passed since the mudslide in Hiroshima took 74 people's lives. To support the families who lost their homes, Habitat for Humanity Japan worked with the campus chapter based in Hiroshima as well as with Hiroshima Tasuke-Tai, a local partner organization which started after the disaster. Habitat Japan assisted campus chapters to volunteer in the disaster areas providing them with tools, and support Hiroshima Tasuke-Tai to repair homes.





ユースプログラム 30 Chapters キャンパスチャプター数 /Active in | ファンドレイズ額 /Raised

ビタットでは、貧困住居問題解決を担う若者の育成にも

JPY 3,820,000.-









取り組んでいます。抜本的な住居問題の解決には、未来を 担う若者の参加が不可欠です。特にアジア太平洋地域に おいては毎年『Habitat Young Leaders Build』というハビタット最 大のユースキャンペーンを展開し、ボランティア活動のみならず、ファ ンドレイジングや啓発活動にアジア各国の若者が参加しています。 期間中、日本からもアジア各国で取り組まれる住居建築活動に学生 が参加するほか、国内では各地で募金活動などが行われました。

Habitat for Humanity rallies more and more young people to take the initiative to solve housing issues in the Asia-Pacific region. These future leaders can accelerate the move to transform many lives.

キャンパスチャプター Campus Chapters

キャンパスチャプターは、ハビタットと共に貧困住居問題解決に取り組む、 学生主導で運営されている学生支部です。北は北海道から南は九州大分 まで、2015年度は30のキャンパスチャプターが活動し、夏休みや春休みに は多くの学生が海外建築ボランティアに参加しました。その他チャリティー イベントの開催や、高校訪問による啓発活動など、学生ならではのアイデア を持って、活動を続けています。

A campus chapter is a student-led, student-initiated organization on a college campus that partners with Habitat for Humanity to realize Habitat's vision; A world where everyone has a decent place to live.



【◆】企業×キャンパスチャプター Corporate Supporter × Campus Chapters



CSR活動の一環として、各企業の特性を生かした支援活動が始まっていま す。特に、キャンパスチャプターへのワークショップや、彼らのボランティア活 動をサポートすることで、ハビタットの活動を支援することが、新たな社会貢 献として注目されています。2015年度はハビタットの長年のパートナーであ るゴールドマン・サックスから協力を得て、学生向けワークショップを行いま した。世界をリードする金融のプロによる助言を受けた学生たちは、チーム ごとにプレゼンコンペを行い、目標を持ったファンドレイジングや啓発活動 の重要性を社会人の視点で伝えていました。

Partnering with corporates, Habitat for Humanity Japan provides skill-enhancing programs for the campus chapters, opening many doors for their activities. Goldman Sachs, Habitat for Humanity's longtime supporter, offered probono mentoring to students on ways to more effectively raise funds and awareness.

As finance professionals, the volunteers gave concrete advice to the chapters on setting feasible goals.

wanted!

キャンパスチャプターの活動を支えてくださるスポンサーを募集しています。

詳しくは、yp@habitatjp.orgまで。

More information about the sponsorship for the campus chapters at yp@habitatjp.org.

貧困住居問題の解決に向けて、今年度、ハビタット・フォー・ヒューマニティ全体では、 物品や団体からの助成金を含め、多くのご支援をいただきました。

Total global revenue in FY2015: 1,920 億円(\$1.6Billion)

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン決算の概要

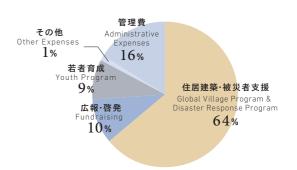
Financial Statements of Habitat for Humanity Japan





総額1億2,059万円

(Total: JPY120,590,000.-)



(単位:円)

活動計算書 (2014年7月1日~2015年6月30日)	
経常収益	
受取会費	1,609,000
受取寄付金	125,320,045
受取助成金等	10,935,063
その他収益	1,019,055
経常収益計	138,883,163
経常費用	
事業費	101,866,865
管理費	18,723,866
経常費用計	120,590,731
当期経常増減額	18,292,432
経常外費用	718,025
税引前当期正味財産増減額	17,574,407

貸借対照表 (2015年6月30日現在)	
資産の部	
流動資産	53,988,799
固定資産	4,420,943
資産合計	58,409,742
負債の部	
流動負債	30,821,876
固定負債	0
負債合計	30,821,876
正味財産の部	
前期繰越正味財産	10,013,459
当期正味財産減少額	17,574,407
正味財産合計	27,587,866
負債及び正味財産合計	58,409,742

ご支援いただいた企業・団体の皆さま

Recognition

カトリックイエスズ会 (The Society of Jesus - Japan Province) 新潟 AJET (Nigata AJET) クレディ・スイス証券株式会社 (Credit Suisse) 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC) ゴールドマン・サックス証券株式会社 (Goldman Sachs) スタンダードチャータード銀行 (Standard Chartered Bank) 株式会社セールスフォース・ドットコム (Salesforce.com) 大和ハウス工業株式会社 (Daiwa House)

西那須野幼稚園 (Nishinasuno Kindergarden) 日産自動車株式会社 (Nissan Motor)

日本ヒルティ株式会社 (Hilti)

日本福音ルーテルむさしの教会 (Lutheran Musashino Church) ブルームバーグ L.P. (Bloomberg)

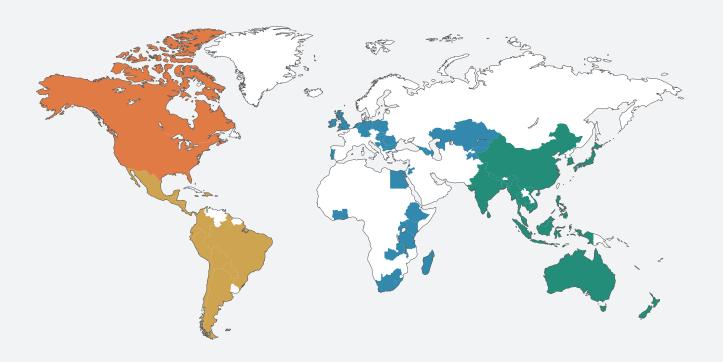
株式会社LIXIL (LIXIL)

この他にも、多くの企業・団体・個人の皆さまからご支援をいただきました。心より御礼申し上げます。

PROGRAM

YOUTH

THANK YOU,



1976年の設立以来、ハビタット・フォー・ヒューマニティは、世界中の人と手を取りあい、貧困や災害、紛争などから立ち直ろうとする680万人もの人々に、家やコミュニティを築いてまいりました。安心して暮らせる家、それは希望ある未来を築く一歩です。ハビタットの活動にボランティアとして、そしてサポーターとして寄り添ってくださる皆さまに御礼申し上げると共に、今後も引き続き、活動にご支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

Thank you for your support of Habitat for Humanity. Your contribution enables us to bring people together to build homes, hopes and communities. Since 1976, Habitat for Humanity has helped more than 6.8 million people gain strength, stability and independence through housing, including home construction, rehabilitation and repairs and by increasing access to improved shelters through products and programs.



特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-7-15 近代科学社ビル 3階

Tel: (03)-5579-2550 Fax: (03)-5579-2551

E-mail:info@habitatjp.org URL:http://www.habitatjp.org